

◎背景と目的

モビリティ・マネジメント教育（以下、「MM教育」という）は現在、数多くの地域で地域学習や環境学習などとして、様々なプログラムが実施されている。一方で学校教育現場での学習指導要領の改訂やタブレット化（ICT教育）などの新しい動きがあり、新しい学習指導要領が小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面実施、高等学校では2022年度の入学生から年次進行で実施されている。

学習指導要領が変われば、各学校の取組み内容も変化することから、当財団において今まで支援をしてきた各校（延べ107校）の取組みを整理することで、MM教育の取組み内容の変化をとらえる。

<エコモ財団で行っている学校への支援制度の概要>

- 電車やバス（利用等）の教材化を行う学習に対する支援制度（例）
 - ・ 地域の電車・バスなど（公共交通）について考える学習
 - ・ クルマ社会の問題（渋滞・環境問題など）について考える学習
 - ・ まちづくりと交通について考える学習
 - ・ 交通を通じて自分たちの住む地域やふるさとについて考える学習
 - ・ その他、まち・環境・公共（政治や公民的資質、シティズンシップなど）と交通に関わる、様々な学習
- 申請者は、学校や教員とし、年間最大15万円の費用を支援するもの（単年度限り）
- 費用は原則として、カメラやビデオ、パソコンといった汎用性のあるものの購入以外に活用できる



◎新学習指導要領のポイント

①社会に開かれた教育課程

よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしなが、**社会との連携・協働**によってそのような学校教育の実現を図ることを目指す。

②育成を目指す資質・能力

育成を目指す資質・能力を明確化し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」の三つの柱。

③カリキュラム・マネジメント

子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていく。

④『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善

授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものとなっているかという視点から授業をよりよくしていく。

※文部科学省「新学習指導要領のポイント」

(https://www.mext.go.jp/content/20191219-mxt_kyoiku01-100002625_1.pdf) より抜粋

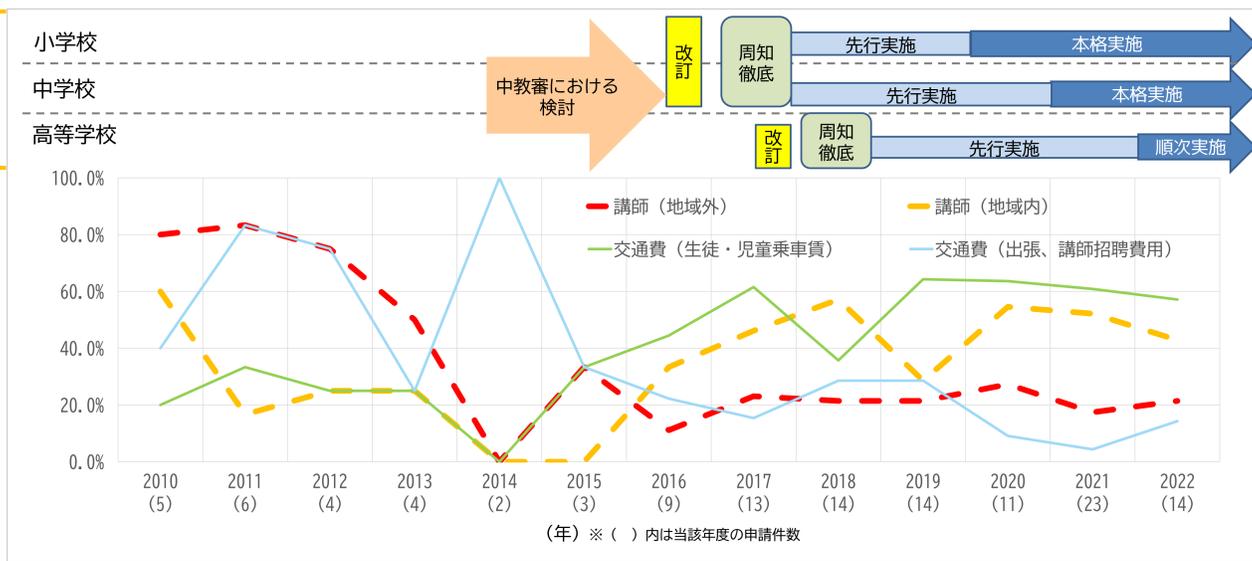
『**主体的な学び**』の視点の一つとして「学ぶことに興味や関心を持つ」が挙げられている。子供が学ぶことに興味や関心を持つために多くの授業研究の場で強調されているのは、授業の導入時に「**具体物を提示して引きつける**」こと』である
※文部科学省国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」より



例えば、鉄道やバスを使った学習

◎申請内容からみる学習方法の変化

新学習指導要領の実施スケジュール



新学習指導要領の実施スケジュールとエコモ財団への申請内容の変化

中央教育審議会での検討が始まった2014、2015年あたりから支援金の用途が変化。

- ・ 講師を地域外から呼んでいたものが多かったが、交通事業者や行政、自治会など地元からの招聘が増加
- ・ 交通費は出張費や遠方からの講師招聘費用として使われていたものが、生徒・児童の乗車費用として使われるものが増加

地域社会との連携・協働。具体物を使った教育へ

◎MM教育の学習例

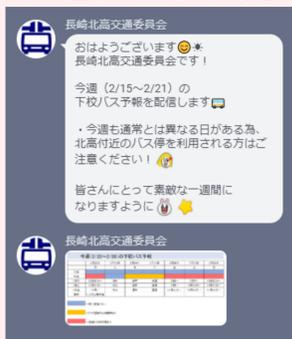
<東京都小平市の小学校>

多摩モノレールの延伸計画を教材として、なぜ延伸が必要なのか、延伸した際のメリット・デメリットを学習するとともに実際にモノレールに乗車。行政からは延伸の必要性、交通事業者からは日々の運行で注意していることやバリアフリーの取組みなどを学習。具体的な事例を用いた学習で、児童も理解しやすい学習となっている。



<長崎県立長崎北高等学校>

限られた便数のバスで下校するため、試験や学校行事等で変則的に下校する場合には、バス車内が大変混雑する。そこで地域と学校の共存を目指し、LINEを使った地域住民向け情報発信システムを学校で構築。地域問題に取り組む人材育成の機会としている。



<沖縄県浦添市>

市民は500m以内の移動でも約4割が自動車で移動しており、また小中学校でも2割以上の学生・児童が自動車送迎によって通学している。またICTを活用した学習の推進を行っていることもあり、交通すごろくのICT化などを行った。交通すごろくにより、地球環境問題や渋滞などについて一定の意識変化がみられる学習となっている。



実践事例などは、MM教育ポータルサイトに掲載しています。

(<http://www.mm-education.jp>)

